

株式会社サワイ

■平成24年度テーマ

新・生産管理システム開発・構築による国際競争力強靱化と差別化を実現

■平成24年度概要

社内の生産管理をIT化することにより、当社の主力製品である金属加工部品の生産管理レベルを強化し、生産進捗情報のリアルタイム提供システムの開発を行い得意先の在庫を極小化、並びに利便性を高め国際競合との差別化を実現する。さらに、新生産管理ツールを使いこなすことによって多品種少量生産能力を高め、生産リードタイムの短縮・原価の改善を進め、得意先とのウィン・ウィン関係の強化し国際競争力の強靱化を確立し国内製造の企業経営を維持・継続、成長を実現する。

■平成24年度分類

＜事業類型＞ 試作開発＋設備投資

＜競争力強化の形態＞ 生産プロセス強化型

＜22分野技術＞ 切削加工

■事業の概要と成果

生産に係るあらゆる情報を一元管理可能な生産管理システムの導入により、社内での生産情報共有化が図れ経営体質の強化に繋げることが可能となった。情報の共有は社内のみならず、開発されたシステムにより開示された情報を、インターネット環境であれば遠隔地からの検索が可能となる。お客様へのタイムリーな情報公開による利便性向上が実現されたことにより、競合他社との差別化が図ることができ、新規顧客開拓のツールや既存顧客に対するサービスの強化となった。

■平成25年度テーマ

大物部品の高速研削化並びに超精密平坦精度技術開発と量産化

■平成25年度概要

サブミクロン制御横形サドル式研削機による、直径1.3m定盤の超精密平坦精度加工方法とコスト競争力の高い量産体制を確立する。本精密定盤搭載大型ラップ盤（研磨機）による、太陽光発電シリコンウエハー及び次世代パワー半導体向け酸化ガリウム基板研削工程の高度化に資する。

■平成25年度分類

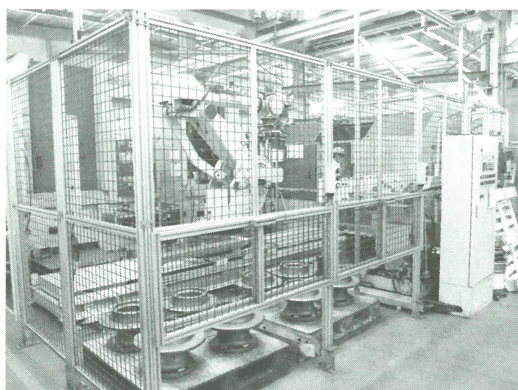
＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
精密加工

＜事業類型＞ 成長分野型
設備投資のみ
環境・エネルギー

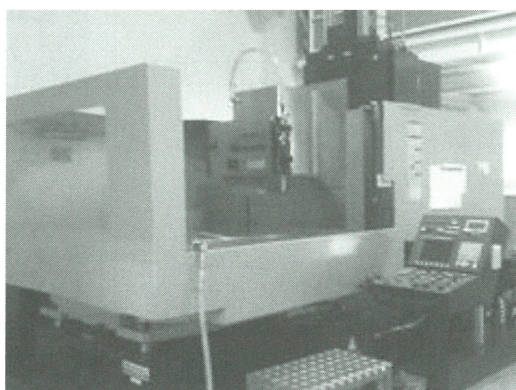
■事業の概要と成果

〈概要〉サブミクロン制御横形サドル式研削機による、直径1.3m定盤の超精密平坦精度加工方法とコスト競争力の高い量産体制を確立する。本精密定盤搭載大型ラップ盤（研磨機）による、太陽光発電シリコンウエハー及び次世代パワー半導体向け酸化ガリウム基板研削工程の高度化に資する。

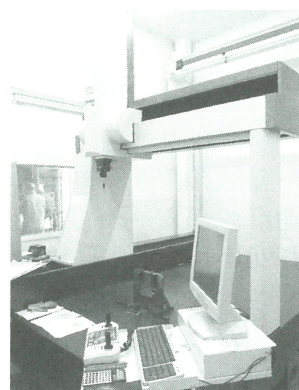
〈成果〉従来使用しているタレット式複合研磨機においての加工は複合性が必要な製品の研削には有利である反面、平面面積が大きい製品においての加工に関しては機械構造上の問題から、生産性が低くなってしまう問題点があった。今回導入したサドル式横形を使用することにより生産性の向上につながることができた。



大型部品無人生産システム



大型ロータリー研削機



大型三次元測定機

好機逸すべからず

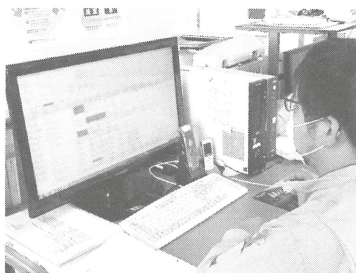
「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社サワイ（佐久市）

積極的かつ戦略的な大型設備投資の継続により、
中・大型部品を中心に好調な受注を続ける。

新たな生産管理システムを構築

昭和27年、旋盤加工業として創業以来、自動車部品・精密機械部品などの加工、自動車整備機器・産業用機械等の組立などを手がけてきた、サワイ。現在、



生産管理システム

難削材の加工から樹脂加工まで、幅広い分野で高精度なものづくりを展開し、工作機械、建設機械、産業機械、航空機産業などの中・大型部品を中心に好調な受注が続いています。

「円安によって競争力がつき、工作機械、産業機械の主要部品などが好調。北米、中国、インドネシアなどで、対前年比15%~20%プラスの実績が続き、国内工作機械業界全体が受注増加傾向にあります。」と、澤井孝幸社長は胸を張ります。

同社は時代の動きを敏感にとらえながら、積極的かつ戦略的に設備投資を実施。特にリーマンショック以降、大型部品の受注をめざし、県内最大規模の立形複合加工機や立形複合研磨機、立形CNC大型旋盤など、1億円近くの設備投資を継続して行いました。それが奏功し、ここ数年の順調な受注につながっているようです。同社ではさらに、より幅広い業種からの受注をめざし、新たな分野にも挑戦しています。

一方、ものづくり補助金を活用して新たな生産管理システムの構築に着手。現在、社内情報の一本化をめざしてデータ収集を進めています。

同システムの大きな特徴は、顧客が同社のホームページで検索すると、発注した案件が何%まで進捗しているかが分かること。顧客との信頼関係を高めるサービスとして、顧客からも導入を喜ぶ声が届いているとか。また同社では、社内の納期意識を高めることにもつながると期待しています。

ブランドは職人が作り上げてきた

「工作機械は日本のものづくりの一番の元。その部品を手がけることで我々の技術力も信頼も上がります。国内で力をつけ、日本のものづくりを

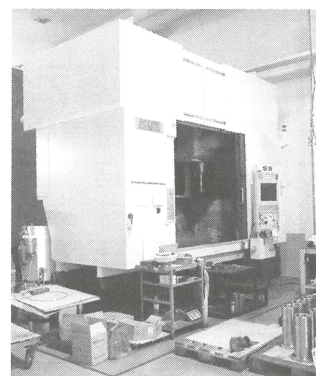
大切にしていきたい」と力を込め、日本でのものづくりにこだわる澤井さん。そこには「メイド・イン・ジャパン」ブランドは職人が作り上げてきた、という強い思いがあります。

「手の間隔、加工音などの感性や、製品に対し細部に渡る拘りを技術者魂として映し入れることが重要。日本でも今、加工具合を手で触れて分かるという職人感覚を持った技術者がいなくなりつつある。しかし、若い技術者にはそれを身につけてほしい。でないと、日本でのものづくりの意味がなくなってしまうと思うんです」

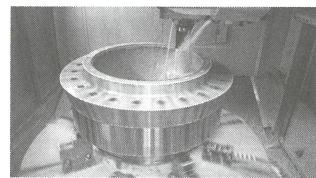
トップの澤井さんは40歳、社員の平均年齢は約35歳と、若さいっぱい同社。それだけに、昔ながらの技術の伝承を大切にする姿勢には意外性を感じる一方、若さを活かした仕事への取り組みには大きな可能性を感じさせます。

「若い社員にはものづくりへの思いを強く持ち、つねに挑戦してほしい。たとえ失敗しても、さらに挑戦を続けることで技術力は確実に上がる。だから、失敗はどんどんしろと言っているんです」

社員教育にも、若さを活かして失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦する人材づくりをめざしています。



超大型の複合研磨機



直径1300約2tの製品加工の様子



株式会社サワイ

代表者 代表取締役社長 澤井孝幸
創業 1952（昭和27）年4月
資本金 2,000万円 従業員数 51人
本社 佐久市小田井1077-6 佐久市小田井工業団地
TEL.0267-67-2251 FAX.0267-67-2405
事業内容 精密金属部品加工（産業機械・工作機械・発電機・建設機械・航空機・鉄道）
産業機器等のユニット組立
ホームページ <http://www.sawainet.co.jp>

